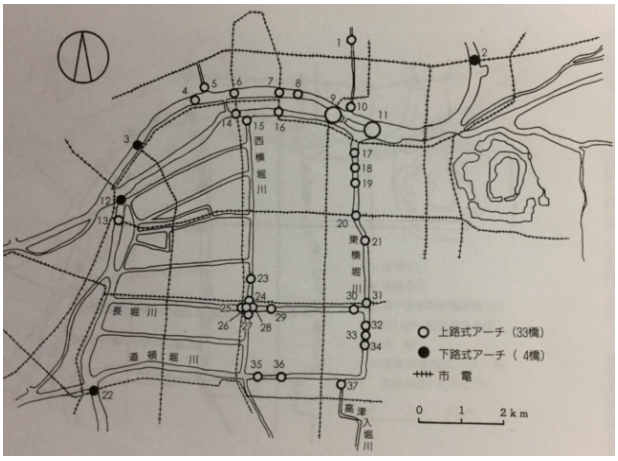
「水の都、橋の都」大阪

大阪は橋の名がつく地名、駅名が多い。昔の地名が残り、埋め立てられて減ったとはいえ、市内を流れる川が多いためだ。



写真は『水の都、橋の都 モダニズム東京・大阪の橋梁写真集』1994 年に掲載された昭和戦前期の大阪市内アーチ橋の分布図。ここには大正 10 年に開始された第一次都市計画事業によるものと、それ以前に竣工したものも含んでいる。

中之島を中心にした堂島川と土佐堀川の区域と、東横堀川の地域に、アーチ橋が多く分布している。アーチ橋を、上路式と下路式にわけると、大阪では東京と違い、圧倒的に上路式のアーチ橋が多い。37 のアーチ橋のうち、33 橋（約 9 割）が上路式である。「明治の中頃から、市街地に架設する橋は、可能な限り、優美な曲線をもつアーチ橋を採用した。アーチ橋は、市街地環境と調和するからである。とくに上路式の橋は、下路式の橋と違い、橋梁内外の眺望を邪魔しないので、このタイプは陸続と架設された」(「橋梁」『日本工業大観』) @「上路式」とは橋桁がアーチの上部にあるもの。

今に残る有名な橋を番号で示しておこう。16 淀屋橋、9 難波橋、11 天神橋、36 戎橋など。次の写真は 24、26、27、28 の四つ橋(昭和 2〜3 年)。四つ橋は西長堀川と長堀川との交差部にかかる四つの橋、上繋橋、炭屋橋、下繋橋、吉野家橋の総称。ここは橋上から眺められる周辺の景色が大変すぐれ、都市のなかの貴重な散策場所になっていた。納涼や観月の名所でもある。「上路式」アーチ橋が採用されたのは、単に舟運の便だけでなく、やはり当地が観月や納涼など、眺望の場になっていたことを強調しておきたい。舟運の便だけなら、下路式のトラスト橋でひとまたぎした方が、橋下に構造物がないので安全で便利である。舟運には、多少不便で安全性に欠けるとしても、「上路式」のアーチ橋が架設されたのは、やはり当地が眺望と散策の場所であったことが、大きく影響したと考えられる。

大阪まち歩きテーマのひとつに、「水の都」「橋の都」を加えよう。自宅近くの神崎川などとともに、今は埋め立てられて地名だけ残る橋を含めて、ぼちぼちと訪ねてみよう。レポートの「ネタ」がまた増えた。

（2018 年 2 月 24 日）